

< 概要 >

大分県臼杵市野津川にかかる明治橋は、明治 35 年に完成した、今年で 103 年を経た橋梁です。本橋は「トラフ状底鋼板の上にコンクリートが載せられた、いわゆる合成床版を有する橋」、「原位置に現存し供用中の道路橋」という 2 つの日本最古の特徴を持っており、日本の鋼道路橋における歴史上重要な土木構造物です。平成 17 年 6 月現在、A 級土木遺産および大分県指定有形文化財として保存されています。本橋を永続的に維持・保存していくため、様々な方面から検討し、周辺環境を含めた総合的な補修計画の策定を目指しています。主な検討項目としては、以下の 3 つが挙げられます。

- ① 歴史的価値の評価
- ② 健全性（耐久性）の照査
- ③ 補修対策および保存活動

< 特徴 >

健全性照査の観点から、構造・損傷度調査および静的載荷試験などによって現状のデータを得ます。それと歴史的橋梁の保存には不可欠な歴史調査から解明された架設当時の様子と合わせ、本体の形状を極力変えず、維持するための方法を検討しています。

< 展望 >

構造的調査と歴史的調査の 2 面から本橋についてのアプローチを行い、総合的な補修・保存方法の検討を行います。平成 16 年 3 月に、構造損傷度調査およびトラック車両を用いた静的載荷試験が行われました。また、今後の歴史的橋梁を保存、保全をしていく際の手法や配慮すべき点を提案していきます。



図 全景



図 構造調査



図 架設当時（明治 35 年 2 月）



図 床版張り出し部状況



図 対傾構座屈状況



図 架調査用足組み



図 架設位置